



「ツナガリ」が繋がる

僕の町には小さなアーケードがある。

足を踏み入ると、おばあちゃんが魚屋の店主と今晚の献立について楽しく話したり、新しいパン屋ができたなんて噂が立ったりそんな地元の魅力的な「ツナガリ」なんてものをアーケードは肌で感じ取れる。

商店街にある豊かな「人のツナガリ」とはどうして生まれているんだろう。

アーケード内の一つ一つの人のコミュニケーションが全体の魅力になっている。衰退しつつあるアーケードのこんな価値を建築していきたい。

01 提案

衰退気味のアーケード商店街の豊かなつながりを「+×÷」を切り口として定義する。

そんな豊かなつながりをもとに空き家化してしまった土地を地域センターとして計画していく。

アーケード商店街の昔ながらの豊かな「ツナガリ」を紡ぎ大きくする。

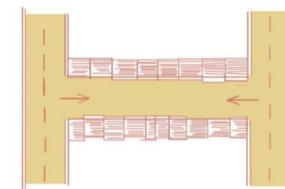
02 商店街のつながり

+ (タス) : 新しい発見



新しいお店、グッズ、食べ物、人などを新発見して興味を持つ。

- (ヒク) : 引き込む動線(道)



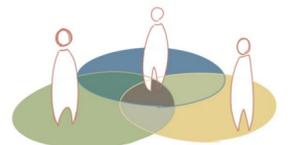
街の動線の一部で街とのつながりをもつ。

× (カケル) : 接点、情報交換



商店街の新情報を店主から聞いたり、興味のなかった分野のお店の存在に気が付いたりする。

÷ (ワル) : 空間を皆でシェア

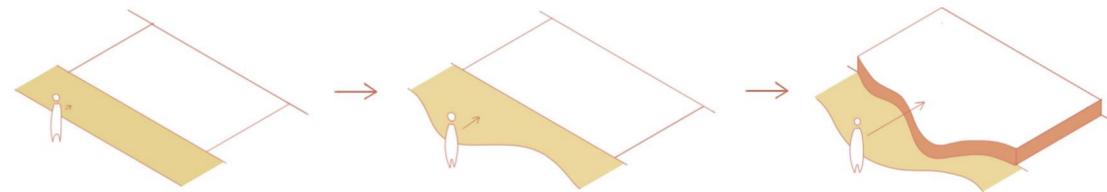


しゃべることはないけど、みんないて活気がある。どこか安心する。

03 ダイアグラム

ダイアグラム1

商店街のにぎわいを紡げる形とは、「+×÷」で解釈した商店街の「つながり」を設計に落とし込んだ。

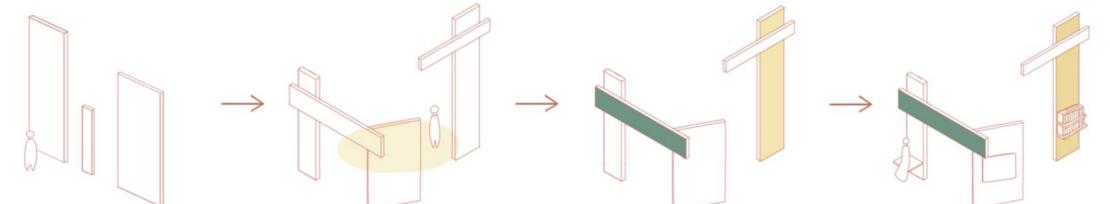


道と建物の中間領域を作る。商店街との「×：接点、情報交換」を増やす。

中間領域を波線にすることで、さらに道「—：町の動線」と建物の関係性を曖昧にして「×：接点」をつくる。

さらにスラブの波も重ね、アーケード全体を見ると店、道、新しい地域センター部が緩やかにつながる。「÷：空間をシェア」

ダイアグラム1



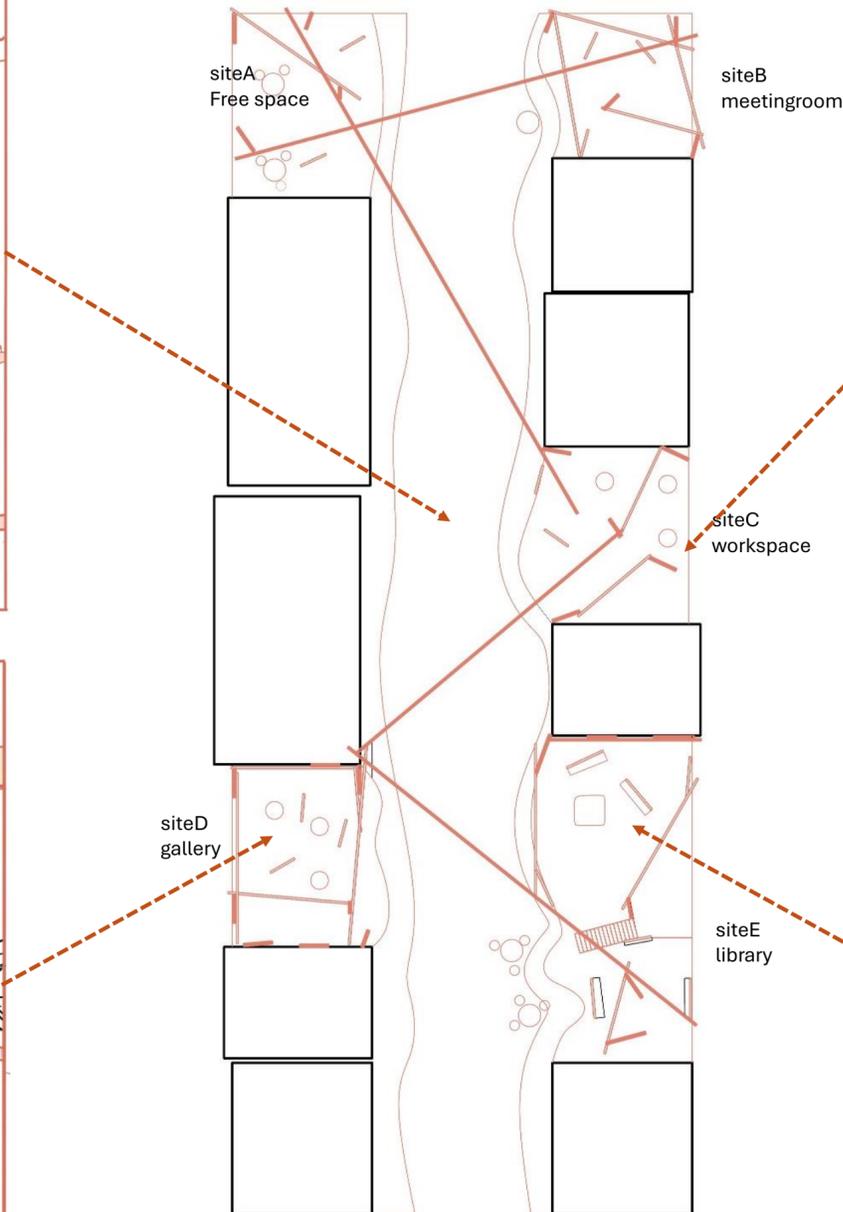
板を何枚か立て、壁では作れない隙間によって空間の分け方を曖昧にする。「÷：空間をシェア」

壁をまばらに配置した。囲まれた空間は緩くプライベートを守る。「÷：空間をシェア」

商店の看板などの色を板に塗装する。商店街の賑わいを残していく。「+：情報の交換」

板に本棚、アトリエ、椅子などの機能をつけていく。「+（タス）：新しい発見」

04 ツナガリが広がっていく



First floor plan
1/250

